

2020年10月1日
一般社団法人Jミルク

“コロナ後” やフードシステムを深掘り 情報誌「国際 Dairy レポート」 秋号発行

一般社団法人Jミルクは、7月に創刊した業界・研究者向け情報誌「Jミルク国際 Dairy レポート」(季刊)の2020年秋号を発行(ウェブサイトに掲載)しました。新型コロナウイルス禍で大きく需要が減った外食産業の今後などについて分析を試みた特集「外食の完全回復見通せず」をはじめ、国際組織「グローバル・デーリー・プラットフォーム(GDP)」のドナルド・ムーア専務理事への特別インタビュー、持続可能なフードシステムに対する酪農乳業の貢献についての解説などを掲載しています。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大からほぼ半年。この間、米国などで植物性の原料を使った「代替肉」が注目を集めたり、UAEでは食糧安全保障強化のため乳牛を輸入したりしました。これらの動きを踏まえ、特集記事では「変化するサプライチェーン(供給網)への対応」「持続可能性」「ローカル回帰」というキーワードが浮かび上がったと分析しています。

特別インタビューでは、ムーア氏が「植物性食品に偏った人々や開発途上国など栄養素が不足している人々もいる。そのような人々に牛乳乳製品を摂取してもらうことで、ビタミンやミネラル、高品質のタンパク質などの必須栄養素が補給できる。牛乳乳製品を食事に組み入れることが重要であり、各国の食生活指針にも組み入れている。つまり牛乳乳製品は、健康的な食事の鍵となる部分」だと指摘しています。

「国際 Dairy レポート」は、日本の酪農乳業界の国際対応を世界水準とすることを目指し、国際事業の体制整備を進めてきた取り組みの一環として創刊しました。世界の酪農乳業界を巡る動向や直面する課題、牛乳乳製品に関わるマーケットのトレンドなどを発信するものです。



変化する世界のマーケット
外食の完全回復見通せず
「供給網」「持続可能性」「ローカル」に関心が高まる？

▶ 特別インタビュー：ドナルド・ムーア氏（GDP専務理事）に聞く



2020 年秋号では主に次の内容を掲載しています。

- ▽特集「外食の完全回復見通せず／『供給網』『持続可能性』『ローカル』に関心が高まる？」
- ▽持続可能なフードシステムと酪農乳業セクター
- ▽（上記関連）ドナルド・ムーア氏（GDP 専務理事）に聞く
- ▽酪農乳業の国際連携に向けて（活動や成果の紹介）
 - ・IFCN＝酪農場におけるウォーターフットプリント方法論について
 - ・GDP＝酪農乳業のジェネリックマーケティングとコミュニケーション活動を支援する
 - ・IDF＝2020 年の国際酪農連盟活動における優先課題（その 2）
 - ・JIDF＝コーデックス食品添加物一般規格：ビタミン・ミネラル栄養強化乳飲料の食品添加物基準
- ▽食料システムを可視化する「フードシステム・ダッシュボード」
- ▽コラム：「ゴーストキッチン」の台頭とレストランの将来

以 上

※レポート本体は J ミルクホームページ (<https://www.j-milk.jp/>) に掲載しています。

【本件に関するお問い合わせ先】
一般社団法人 J ミルク
国際グループ 新 光一郎
東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5 階
電話：03-5577-7495